



松山猛  
の

時計王  
2



世界文化社

ト・ウォッチのサイズのトゥールビヨンを実現していて、それによつて、より高精度で安定した性能となった。しかもトーンと大きなキヤリッジと、スクリーバランスが蠢き、迫力満点なのだ。

彼の他にも、トゥールビヨンを作ったスピーク・マリヤ、ポケット・ウォッチ・サイズのムーブメントで、ドレスデン風の腕時計を作ったラング&ハイン、これまで柱時計や置時計だけ作っていたドイツのレイナー・ニエバーが、初めて腕時計にチャレンジしたりと、アカデミーのブラスは、きわめてにぎやかなものであった。

ベテランのオランダ人天文時計師クラウヤ、アントワーン・プレジウソ、スヴェン・アンデルセン、フィリップ・デユフォも元気だ。香港の矯大羽さんは今年、シリーズ化した腕時計をついに発売した。ただし今のところミステリー・トゥールビヨンではなく、シンプルなモデルだ。

とにかく話題の多いアカデミーの面々だが、彼らの日々の努力と、とてつもない発明に、これからも期待したいものだ。

2004年8月



「ビート・ハルディマン」。若き時計師はセンタートゥールビヨンを、わざわざだが、安定供給できるようにした。@シエルマン銀座店

